



Overseas Fishery Cooperation Foundation of Japan

評価報告書

— 2016 年度 研修生受入事業 —

(終了時評価—2017 年 4 月)

水産技術者養成（実習）コース〔実習訓練グループ〕

研修生受入の概要

研修コース名	水産技術者養成（実習）コース〔実習訓練グループ〕
参加国及び参加人数	1 か国 4 名（中華人民共和国）
研修コース実施の経緯と背景	<p>1970 年代からの各国の 200 海里経済水域の導入に伴い、我が国漁業者は関係沿岸国との交渉により入漁を確保することを余儀なくされ、海外漁業協力と漁場の確保を一体的に推進するという立場から、現地法人への投資等により関係沿岸国の漁業の開発振興に協力してきている。これら現地法人等の育成には漁業生産や製造加工等にかかる技術移転が不可欠であり、現地法人等が時々必要とする技術力の向上を目的として 1974 年度から開設しているコースである。</p> <p>近年は、特に食品の安全性が問題視されており、我が国の水産会社の海外合弁あるいは技術提携企業においても技術者や製造員の水産製品の品質管理にかかる技術力の向上並びに知識の習得は喫緊の課題になっていることから、水産物の品質管理等加工分野の研修生が大層を占めている。</p>
研修期間及び研修場所	<p>2016 年 7 月 20 日～10 月 24 日（97 日間）</p> <p>一般研修：7 月 20 日～8 月 18 日（30 日間） （研修場所：幕張国際研修センター）</p> <p>技術研修：8 月 19 日～10 月 24 日（67 日間） （研修場所：推薦会社の研修センター、工場、事業所、事務所等）</p>
上位目標	関係途上国の水産加工技術のレベルが向上する
研修目標	良質な生産現場の技術者等が育成される
成果	水産製造の製造員、技術者等の技術力が向上する
活動	<p>1) 一般研修：学科講義、日本語基礎会話</p> <p>我が国の水産業の紹介（水産物流通、水産物加工、品質管理）</p>

	2) 技術研修：学科講義・実技研修 水産加工（加工用原料選定、加工作業等） 品質管理技術（官能検査、品質チェック等）		
投 入	1) 財団側		
	投入内容	人的投入（講師等）	物的投入（研修資材等）
	一般研修	講師 1 名 日本語講師 2 名 水産講師 1 名	日本語テキスト、 水産専門講義テキスト等
	技術研修	各工場、事業所、研修センターに各 1 名	工場、事業所、研修センターの 装備、機器類を使用
	事業費	8 百万円	
	2) 受入対象国側 投入なし		

評 価 事 項

◆ 妥 当 性

1. 研修実施計画は相手国のニーズに合致していたか

我が国の水産会社の海外合弁あるいは技術提携企業においては、技術者や製造員の技術力のレベルアップが課題となっており、進んだ水産技術に触れることが出来る我が国での研修ニーズが大きい。

近年、特に食品の安全性が問題視されており、水産製品の品質管理技術に対する研修ニーズは大きい。

また、中華人民共和国（以下「中国」という。）において品質管理の面での技術力の向上は喫緊の課題となっており、本研修コースの研修内容は相手国のニーズに合致していた。

2. 研修実施計画の妥当性（一般研修・技術研修）

研修実施計画は、水産製造分野の技術力を向上させる内容であり、妥当であった。

3. 研修実施計画は、一般研修期間及び技術研修期間中の研修生活の実態を考慮して作成されたか

一般研修では、日常生活及び技術研修に必要な基礎会話の習得を目的として日本語研修を実施するとともに、技術研修では、それぞれの研修分野に合わせた実技研修を実施し、いずれも指導員、研修監理員を適切に配置するなど研修生活の実態を考慮した実施計画を作成した。

4. その他

特になし。

◆ 効 率 性

1. 講師、研修施設、研修資機材等は計画通りに投入され、期待される成果を上げたか

一般研修は、日本語専門講師を2名配置し、日本語研修を行った。水産専門講義においても各科目に1名の経験豊富な講師を配置した。技術研修では、実技研修先の我が国水産系企業や団体の工場等において専任の指導員を配置した。

これら講師・指導員の配置に加え、研修教材、研修資機材、研修施設は計画通りに投入され、研修生の技術力が向上した。

2. 研修内容、水準、技術指導方法は適切に実施されていたか

各カリキュラムの研修日数、講義、実習の内容と水準並びに指導方法は、これまでの経験を踏まえ、適切に計画され、実施された。

3. その他（研修の効率性に影響を与えたと考えられる貢献・阻害要因等）

特になし。

◆ 有 効 性

1. 研修目標の達成度

研修目標： 良質な生産現場の技術者等が育成される

各研修生は、海外合弁企業等において研修分野の職務経験を既に有しており、本研修でのブラッシュアップにより、それぞれの資質と技術力をさらに高め、研修目標は達成された。

2. その他（研修生の研修意欲・研修満足度等及び職場における社会・文化、制度上の環境等外部要因が、研修目標の達成に与えた影響等）

特になし。

◆ インパクト

1. 上位目標の達成に対する研修目標の達成の効果は、どの程度見込まれるか

関係沿岸国における水産加工技術等のレベル向上のためには、海外合弁企業等の生産現場を担う人材の育成が不可欠であり、本研修により、これら人材が育成されたことで研修生の所属する合弁企業等での水産関連技術レベルの向上が図られている。しかしながら、国全体の関連技術の向上に与えるインパクトは限定的である。

2. 研修生受入事業は、政策形成、社会・経済等でどのような直接的・間接的な効果又は負の影響が見込まれるか

加工用原料選定、加工作業、細菌検査、品質チェック等について学んだことにより、

水産製品に対する安全・安心な品質管理技術の改善に効果が見込まれ、一定のスタンダードの国際化が図られる。

3. その他（計画当初予見できなかった効果又は負の影響が見込まれるか等）
特になし。

◆ 持続性

1. 研修生は帰国後、研修の成果を有効に活用している（できる見込み）か
研修生の技術力の向上は、所属する合弁企業等の生産現場にとって貴重なものであり、それぞれの職場で有効に活用される。
2. その他（相手国及び研修生の自立発展に影響を与えたと考えられる貢献・阻害要因等）
特になし



〔水産技術者養成(実習)コース実習訓練グループ研修修了式後記念写真〕



Overseas Fishery Cooperation Foundation of Japan

評価報告書

— 2016 年度 研修生受入事業 —

(終了時評価一年 4 月)

水産技術者養成（実習）コース〔運営管理グループ〕前期

研修生受入の概要

研修コース名	水産技術者養成（実習）コース〔運営管理グループ〕前期
参加国及び参加人数	5 か国 6 名 (タイ王国…2 名、ベトナム社会主義共和国…1 名、アンゴラ共和国…1 名、ナミビア共和国…1 名、モーリタニア・イスラム共和国…1 名)
研修コース実施の経緯と背景	<p>我が国水産会社の海外合弁あるいは技術提携企業においては、安定した工場、事業所の運営を維持するための幹部職員、中堅技術者の運営能力並びに技術力の向上が、また、我が国関係沿岸国において、水産物の漁獲、加工、流通等時々の政策課題を担当する人材育成が喫緊の課題になっている。</p> <p>本研修は、我が国水産会社の海外合弁あるいは技術提携先である現地企業の幹部職員、中堅技術者並びに関係沿岸国の水産振興・開発を担う人材を対象とするため、短期間でそれぞれの課題に特化した技術力の向上を図るため開設したコースである。</p>
研修期間及び研修場所	<p>2016 年 9 月 9 日～10 月 24 日 (46 日間)</p> <p>一般研修： 9 月 10 日～9 月 27 日 (19 日間) (研修場所：幕張国際研修センター)</p> <p>技術研修： 9 月 28 日～10 月 24 日 (27 日間) (研修場所：研修生推薦会社の研修センター、工場、事業所等)</p>
上位目標	関係途上国の漁業生産技術・加工技術のレベルが向上する
研修目標	良質な生産現場の技術者等が育成される
成果	工場の職長クラス等の運営管理あるいは品質管理技術が向上する
活動	<p>1) 一般研修 学科講義：日本語基礎会話 我が国の水産業の紹介（水産物加工、品質管理、食品産業の危機管理）</p> <p>2) 技術研修 学科講義と実技研修：品質管理、工場運営管理</p>

投 入	1) 財団側		
	投入内容	人的投入（講師等）	物的投入（研修資材等）
	一般研修	日本語講師 2 名、 水産講師 3 名	日本語テキスト、 各講義科目テキスト、 パソコン
	技術研修	指導員：各工場、事業所、 研修センターに各 1 名	工場、事業所、研修センター の装備、機器類を使用
	事業費	9 百万円	
2) 受入対象国側 投入なし			

評 価 事 項

◆ 妥 当 性

1. 研修実施計画は相手国のニーズに合致していたか

我が国の水産会社の海外合弁あるいは技術提携企業においては、安定した工場運営を持続するために、職員や技術者の運営能力や品質管理技術のレベルアップを図りたいという要望が大きい。特に、食品の安全性が問題視されており、水産製品もその例外ではない。品質管理技術に対する研修のニーズは大きい。

また、近年、アンゴラ、ナミビアについては、水産物の漁獲、加工、流通の知識・管理技術、モーリタニアについては、まぐろ延縄漁業管理手法に関する技術の向上が望まれており、本研修コースの研修内容は、相手国のニーズに合致していた。

2. 研修実施計画の妥当性（一般研修・技術研修）

研修実施計画は、現地合弁等企業の工場等の職長クラスに必要な技術力を向上させる内容であり、妥当であった。

3. 研修実施計画は、一般研修期間及び技術研修期間中の研修生活の実態を考慮して作成されたか

一般研修では、日常生活及び技術研修に必要な基礎会話の習得を目的として日本語研修を実施するとともに、技術研修では、実技研修をそれぞれの研修分野に合わせて実施し、いずれも指導員、研修監理員を適切に配置する等、研修生活の実態を考慮して実施計画が作成された。

4. その他

特になし。

◆ 効 率 性

1. 講師、研修施設、研修資機材等は計画通りに投入され、期待される成果を上げたか

一般研修では、日本語専門講師を常時 1 名配置し、水産専門講義では、それぞれの科目に経験豊富な講師を配置した。

技術研修では、推薦・関係会社や団体の工場、事業所等において経験豊富な指導員が、現場体験に重点を置き、工場運営、品質管理、HACCP、資源管理等に関して指導した。

講師・指導員の配置に加え、研修教材及び使用される施設・機器は計画通りに投入され、期待される成果を上げた。

2. 研修内容、水準、技術指導方法は適切に実施されていたか

各カリキュラムの研修日数、講義、実習の内容と水準並びに指導方法は、これまでの経験を踏まえ、適切に計画され、実施された。

3. その他（研修の効率性に影響を与えたと考えられる貢献・阻害要因等）

特になし。

◆ 有効性

1. 研修目標の達成度

研修目標： 良質な生産現場の技術者等が育成される

研修生は、管理部門の職員や技術者であり、既に工場製造ライン等の運営あるいは資源管理に係わる専門的知識を有しており、本研修によるブラッシュアップにより、研修生が各々の資質と技術力をさらに高め、研修目標は達成された。

2. その他（研修生の研修意欲・研修満足度等及び職場における社会・文化、制度上の環境等外部要因が、研修目標の達成に与えた影響等）

特になし。

◆ インパクト

1. 上位目標の達成に対する研修目標の達成の効果は、どの程度見込まれるか

関係沿岸国における水産業振興のためには、海外合弁企業等の生産現場を担う人材の育成が不可欠であり、本研修により、合弁企業等の工場運営管理や品質管理及び水産資源管理等を担う人材が育成されたことは、合弁企業等の安定的操業及び水産資源の適正管理に寄与するとともに当該国の漁業・加工関連技術のレベルの向上という上位目標の達成に効果が見込まれる。しかしながら、国全体としての関連技術のレベル向上に与えるインパクトは限定的である。

2. 研修生受入事業は、政策形成、社会・経済等でどのような直接的・間接的な効果又は負の影響が見込まれるか

合弁企業等の経営の安定、工場の運営管理能力、品質管理技術の向上が図られ、国際競争力の強化に一定程度貢献する。

3. その他（計画当初予見できなかった効果又は負の影響が見込まれるか等）



Overseas Fishery Cooperation Foundation of Japan

評価報告書

— 2016 年度 研修生受入事業 —

(終了時評価—2017 年 4 月)

水産技術者養成（実習）コース〔運営管理グループ〕後期

研修生受入の概要

研修コース名	水産技術者養成（実習）コース〔運営管理グループ〕後期		
参加国及び参加人数	1 か国 3 名（パプアニューギニア独立国…3 名）		
研修コース実施の経緯と背景	<p>我が国関係沿岸国において、水産物の漁獲、加工、流通等時々の政策課題を担当する人材育成が喫緊の課題になっている。</p> <p>本研修は、関係沿岸国の水産振興・開発を担う人材を対象とするため、短期間でそれぞれの課題に特化した技術力の向上を図るため開設したコースである。</p>		
研修期間及び研修場所	<p>2017 年 2 月 23 日～3 月 11 日（16 日間）</p> <p>一般研修： 2 月 23 日～2 月 24 日（2 日間） （研修場所： 東京研修センター）</p> <p>技術研修： 2 月 25 日～3 月 11 日（14 日間） （研修場所： 研修生推薦会社の研修センター、工場、事業所等）</p>		
上位目標	関係途上国における水産業の振興が図られる		
研修目標	相手国政府等が推進する漁業振興・管理を担う良質な技術者等が育成される		
成果	水産関連組織の管理運営、訓練実技等に係る技術が向上する		
活動	定置網漁業管理運営、漁具製作訓練実技研修等		
投入	1) 財団側		
	投入内容	人的投入（講師等）	物的投入（研修資材等）
	一般研修	水産専門家 1 名	研修備品等
	技術研修	各事業所等に常時 1 名	定置網関連機材

	事業費	3百万円
	2) 受入対象国側	投入なし

評価事項

◆ 妥当性

1. 研修実施計画は相手国のニーズに合致していたか

我が国と漁業関係を有する途上国等は、自国水産業の振興・開発と適切な漁業管理制度の構築を重要な政策として位置付け、そのための人材育成のニーズが大きい。特に将来、管理者となる技術者を対象とした研修を強く希望している。

本研修は、相手国がその政策推進のために財団の協力の下、実施しているパプアニューギニア独立国（以下「パプアニューギニア」という。）政府は沿岸漁業の発展を重要な施策の一つとしており、特に定置網漁業を沿岸小規模漁業の発展に有効と位置付け財団の技術的支援の下、定置網の全国への普及を推進している。本研修は当該政策推進のための定置網漁業に関する試験調査プロジェクト（以下「プロジェクト」という。）のパプアニューギニア側担当者のキャパシティ・ビルディングを図るものであり、相手国のニーズに合致していた。

2. 研修実施計画の妥当性（一般研修・技術研修）

研修実施計画の内容は、各研修生の担当業務（定置網の保守・管理等）に必要な施設・設備を有し、プロジェクトに影響のない期間で技術力を向上させるものであり、妥当であった。

3. 研修実施計画は、一般研修期間及び技術研修期間中の研修生活の実態を考慮して作成されたか

指導員、研修監理員を適切に配置する等、日常生活を考慮して実施計画が作成された。

4. その他

特になし。



【研修先でのロープワークの技術指導をうける研修生】

◆ 効率性

1. 講師、研修施設、研修資機材等は計画通りに投入され、期待される成果を上げたか

関連機器の工場、事業所等において経験豊富な指導員が、定置網漁具製作訓練、取

扱い講習等に関して指導した。

これら指導員の配置に加え、研修教材及び使用される施設等は計画通りに投入され、期待される成果を上げた。

2. 研修内容、水準、技術指導方法は適切に実施されていたか

各カリキュラムの研修日数、講義、実習の内容と水準並びに指導方法は、これまでの経験を踏まえ、適切に計画され、実施された。

3. その他（研修の効率性に影響を与えたと考えられる貢献・阻害要因等）

特になし。



【市場での漁獲物選別作業をする研修生】

◆ 有効性

1. 研修目標の達成度

研修目標： 相手国政府等が推進する漁業振興・管理を担う良質な技術者等が育成される

研修生は、定置網操業の技術的リーダーであり、専門知識を有しており、本研修によるブラッシュアップが図られ、生産現場の技術者としての資質と技術力がさらに高まったことで研修目標は達成された。

2. その他（研修生の研修意欲・研修満足度等及び職場における社会・文化、制度上の環境等外部要因が、研修目標の達成に与えた影響等）

特になし。

◆ インパクト

1. 上位目標の達成に対する研修目標の達成の効果は、どの程度見込まれるか

本研修によりパプアニューギニアが推進する定置網の普及を担う人材が育成されたことにより、プロジェクトの効果的な実施に繋がり、更に将来、指導的立場に立つことにより、今後のパプアニューギニアの水産業の振興という上位目標の達成に一定の効果が見込まれる。

2. 研修生受入事業は、政策形成、社会・経済等でどのような直接的・間接的な効果又は負の影響が見込まれるか

プロジェクト関係者の運営管理能力、専門技術が向上し、プロジェクトの効率的な実施が図られるとともに、プロジェクトから周辺に技術が伝播することにより、当該

国の水産業のレベルアップに一定の効果が見込まれる。

3. その他（計画当初予見できなかった効果又は負の影響が見込まれるか等）
特になし。

◆ 持続性

1. 研修生は帰国後、研修の成果を有効に活用している（できる見込み）か
研修生の技術力の向上は、相手国が政策を実施する上で貴重なものであり、研修生は漁業振興の実施担当者として習得した知識技能の普及や一層の業務の効率化、高度化を目指すことが期待され、成果は有効に活用される。
2. その他（相手国及び研修生の自立発展に影響を与えたと考えられる貢献・阻害要因等）
特になし。



〔水産技術者養成(実習)コース運営管理グループ（定置網）研修修了式後記念写真〕